

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科
科目名称 [英語名称]	子どもの理解と援助 [Understanding and support of children]			実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	750161	授業形態	講義	単位数	1	配当学年	2年次
教員氏名	福富 隆志			学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP1(2) DP2(1) DP3(1) D P3(2)		
授業概要	<p>本授業の目的は、子どもを理解するうえでの基本的な考え方やその方法、子どもの理解に基づく保育者の援助や態度の基本について理解することです。</p> <p>子どもには一人一人に発達のプロセスがあり、保育実践では子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することが必要です。</p> <p>そのために授業では、子ども一人一人を理解するために必要な観察の視点や職員・保護者との連携について、また、子どもの育ちにかかわる環境について考え、子ども理解に基づく発達の援助について解説していきます。</p>						
関連する科目	「保育原理」を事前に、「保育内容総論」を同時に受講しておくことが望ましい。履修後は、「幼児理解」を履修することが望ましい。						
授業の進め方と方法	<p>基本的な1回の授業構成は以下の通りです。</p> <p>授業の前半では、授業計画に沿った内容について講義を行います。後半では、提示する演習課題に沿って各自で課題解決に取り組み、講義の内容の理解を深めます。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握 保育における子ども理解の意義や子どもに対するかかわりと共感的理解について学びます。</li> <li>2. 子どもを理解する視点① 子どもの生活や遊び、保育の人的環境としての保育者と子どもの発達について学びます。</li> <li>3. 子どもを理解する視点② 子供相互のかかわりと関係づくり、集団における経験と育ちについて学びます。</li> <li>4. 子どもを理解する視点③ 発達における葛藤やつまずき、保育の環境の理解と構成、環境の変化や移行について学びます。</li> <li>5. 子どもを理解する方法① 子ども理解のための観察・記録と省察・評価について学びます。</li> <li>6. 子どもを理解する方法② 子ども理解のための職員間の対話および保護者との情報共有について学びます。</li> <li>7. 子どもを理解に基づく発達援助① 発達に応じた援助とかかわりについて学びます。</li> <li>8. 子ども理解に基づく発達援助② 特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助、発達の連続性と就学への支援について学びます。</li> </ol>						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実践において、実際に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。</li> <li>2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解するうえでの基本的な考え方を理解する。</li> <li>3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。</li> <li>4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。</li> </ol>						
授業時間外の学修	<p>授業計画の当該回の範囲の教科書を事前に熟読し、授業内容を把握しておくことを予習とします。該当ページについては、毎回の授業で伝えます。</p> <p>授業後は、授業内容を振り返り、演習課題に再度取り組み、内容の定着を図ることを復習とします。必要に応じて新たな演習課題を課す場合もあります。</p>						
課題に対するフィードバック	授業後のレポートや授業で示した課題については、提出された回答をいくつか取り上げながら、解説を行います。	評価方法		<ol style="list-style-type: none"> <li>①レポート: 50点</li> <li>②学習態度・意欲: 20点</li> <li>③課題提出: 30点</li> </ol>			
テキスト	初回の授業にて指示をします。						
参考書	『保育所保育指針解説書』(320+税), 厚生労働省編, フレーベル館, 2017						
備考							